【播磨病院内科疾患情報 No.36】

食道癌　～お酒・タバコの好きな方は注意～

●食道癌とは

食道は、のど(咽頭)と胃の間をつなぐ管状の臓器で、口から食べた食物を胃に送る働きをしています。食道癌は食道の内面をおおっている粘膜上皮の一部が腫瘍化し、増殖を続けるものです。

●どういう症状がでるの？

食道癌は発生しても進行するまでは長時間無症状で経過します。これらは早期のものが多く、治る確率が高いです。飲み込む時に胸の奥がチクチク痛んだり、しみたりする症状は、初期の頃にみられます。癌が少し大きくなると、このような感覚を感じなくなり、放っておかれてしまうことも少なくありません。さらに大きくなると食道が狭くなり、食べ物がつかえ、食事量が減って体重が減少します。さらに大きくなると食道をふさいで水も通らなくなり、唾液も飲めずにもどすようになります。癌が食道の壁を貫いて、まわりの肺や背骨、大動脈を圧迫するようになると、胸の奥や背中に痛みを感じたり、咳や血痰が出たりします。食道のすぐわきに声を調節している神経が壊されると、声がかすれるようになります。

●どういう人がなりやすいの？

40 歳代後半から増加し始め、男性に多く、女性の５倍以上です。喫煙と飲酒が危険要因であり、両者で相乗的にリスクが高くなります。
食道癌にかかる人は咽頭・喉頭(のど)にも癌ができやすいことがわかってきました。

●早期発見を！

食道癌は内視鏡検査で診断します。病変を直接観察し、位置、大きさ、拡がりや表面の形状、色調から、癌の進展を判断することができます。

当院では、内視鏡での食道観察にＮＢＩ(Narrow band imaging、狭帯域光観察)を用いています。これは、スペクトル幅の狭い光（狭帯域光）を照射することで、粘膜表層の毛細血管やわずかな粘膜の凸凹、深部血管を強調して映し出し、微細な病変を確認しやすくするものです。これによりごく初期段階の癌の発見が可能となります。

悪性度が高いといわれる食道癌でも早期癌の治療成績は良好ですが、高度に進行した癌を治癒できる治療法は確立されていません。少しでも症状があったら、検査を受け、早期発見・早期治療を行うことが大切です。

詳しくは内科担当医にご相談ください。

（文責：櫛田）

【播磨病院内科疾患情報のバックナンバーは播磨病院のホームページ
http://www.harima-hp.jp/main.htm からご覧いただけます。】